

5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略の普及

5-2-1 教育改革ICT戦略大会

本大会は、教育改革推進の基本問題、情報通信技術活用に伴う教育政策、教育効果を高める情報通信技術の活用方法、最新の情報通信技術環境などの専門知識を普及することを目的として継続開催している。大会の運営・実施は、教育改革ICT戦略大会運営委員会を継続設置して対応した。

(1) 開催方針

22年度は、参加者アンケートを踏まえて、次のような方針で開催プログラムを決定した。

- ① プログラムは、教育の基本問題を中心とした初日のテーマと、課題解決のための2日目の個別テーマとのつながりが参加者に理解できるように企画した。大会への参加のメリットが大学関係者にわかりやすいよう、開催要項に大会共通のテーマやプログラムのねらいを明示した。
- ② 大会テーマを「大学の社会的責任について考える」として、社会に信頼される人材の育成という使命達成に向けて、教育課程及び教育プログラムの工夫改善などの課題を整理し、大学としての対応が急がれる問題を取り上げることにした。
- ③ 初日は、若者の働く意欲の低下が日本の持続的発展に不安をもたらす虞れが考えられることを注視して、国の就業力向上のための取り組みと大学としての取り組み事例を中心に企画した。また、教育活動のアウトカムを社会に公表することを通じて、質保証に大学が組織的に対応していくことの重要性を共通理解することにした。
- ④ 2日目は、初日の内容に関連した戦略・戦術をICT利用の観点から5つのテーマを設定することにした。一つは、学生の学びを支援する「学習管理システムによる教育・学習支援の取り組み」、二つは、基礎学力を補完するための「ジェネリックスキル（汎用的能力）育成の教育プログラム」、三つは、学生一人々の学びを自己点検・評価し、大学としての支援をシステム化する学生カルテ、学習ポートフォリオとしての「質保証を補完するための支援システム」、四つは、情報の取り扱いの学びを徹底するため「学士力を実現するための情報活用能力」、情報システムが抱えている問題を解決する方法としての「クラウド利用による情報環境」とした。
- ⑤ 3日目は例年通り、公募によるICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行うことにした。
- ⑥ ICT導入及び活用の具体的な情報提供を行うため、2日目と3日目に大学・企業共同によるICT導入事例をポスターセッション形式で実施した。大学関係者が参加しやすいよう昨年度と同様、分科会や事例発表の会場の廊下に設けることにした。

(2) 開催結果

以上の方針のもとに、次ページの通り開催要項および日程を決定し、9月1日、2日、3日の3日間に亘り、アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）を会場に開催した。

参加は150大学、11短大、賛助会員は11社で、3日間の参加者数は3日目発表者や賛助会員を含めて416名となり、昨年度より約10名多い結果となった。なお、大会の概要は巻末の資料編【資料12】を参照されたい。

(3) 次年度への準備

大会後、運営委員会では参加者アンケートを踏まえて、平成23年度の開催方針について検討を行った。日程と会場は9月6日から8日の3日間、私学会館で開催することにした。

- ① 初日は、大学教育の方向性を示してほしいという参加者からの要望を受けて、これから目指すべき大学教育のデザイン、教育改革を断行するための大学マネジメント、学士課程における分野別参照基準と質保証、情報人材育成のための産学および大学間連携などについて共通理解を図る。
- ② 2日目は、新しい授業デザインの提案、ピアサポートとICT活用、教育改革とICT活用、情報セキュリティの見直し、大学運営とアウトソーシングなどをテーマとする。情報交流会は、分科会後の交流の場として2日目の最後に実施する。
- ③ 3日目は、例年通り公募によるICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行う。また、2日目と3日目は大学・企業共同によるICT導入事例をポスターセッション形式で実施する。
- ④ 大会に参加できない大学関係者にも周知できるよう、事例紹介等のVTR、レジュメのオンデマンド配信、開催結果のWeb掲載などの迅速化に努めるとともに、加盟校に限定して可能な範囲で講演等のパワーポイントを提供することになっている。



平成22年度 教育改革ICT戦略大会

平成22年度 教育改革ICT戦略大会 プログラム

9月1日 全体会

若者たちが働く意欲を減退させてきており、日本の持続的発展に大きな不安が漂い始めている。人材育成の成果すべてが大学教育に起因するものではないが、生涯を通じて持続的な就業力の育成を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資する教育への取り組みが指摘されてきている。国としての支援、大学設置基準によるキャリア形成教育の義務化に求める教育課程及び教育プログラムの取組、社会からの評価及び支援を獲得するための教育情報の公表などを振り返る中で、大学としての社会責任の在り方について共通理解を深める。

会場	3階 富士
10:00	<p>開会挨拶 向殿 政明 会長 (社団法人 私立大学情報教育協会)</p>
10:05	<p>就業力向上のための国の取組 大学生の就業力を強化するための国の対策として、社会的・職業的な自立を目的とした指導等の大学設置基準での義務化、就業体験を卒業単位に認定するなど、就業力への積極的な取組をすすめる大学への財政支援、また、私立大学への就職危機脱出のための緊急対策としての就職相談員の配置などの一体的な取組について説明を受け、大学としての具体的な対応について理解を深める。 文部科学省 高等教育局大学振興課専門官 喜久里 要 氏</p>
11:00	<p>就業力育成に向けたキャリア形成支援への取組事例 専門教育や一般教育の全体を通じてのキャリア教育志向の取組、幅広い職業意識の形成等を目的とする授業科目の拡充、地域社会との連携による一般的な職業観・勤労観の育成、すべての学生がインターンシップに参加することが可能な取組などから事例を紹介し、大学としての就業力強化の重要性について共通理解を深める。 東京女子大学 加藤 千恵 氏 (国際教養学部教授、GFP推進室長) 金沢工業大学 藤本 元啓 氏 (学生部長、基礎教育部教授) 武蔵野大学 久富 健 氏 (教育部長、環境学部教授)</p>
12:20	休 憩
13:30	<p>就業力育成に向けたキャリア形成支援への取組事例 (午前より続き) 目白大学 安田 和敏 氏 (学務部長、経営学部教授) 静岡産業大学 鈴木 守 氏 (経営学部就職支援グループ長) 中村 直美 氏 (経営学部就職支援グループ主任) 首都大学東京 林 祐司 氏 (大学教育センター准教授)</p>
14:50	<p>自律・自立を促す初年次教育の実態と課題 就業力に欠かれない学習態度として、受動的な学習から能動的で自律的・自立的な学習態度への転換を目指す社会的責任の取組が重要である。また、その成果を大学は、積極的に社会に公表することを確立する。 学校法人河合塾 谷口 哲也 氏 (教育研究部教育研究部統括チーフ)</p>
15:30	休 憩
15:45	<p>説明責任としての教育情報の公表 人材育成という公的役割を付託されている大学は、自らの教育活動の状況・成果・課題などについて、積極的に説明責任を果たす義務がある。しかし、情報公開の現状は極めて消極的である。このような中、文部科学省では省令を改正し、情報の透明化を促進するとしており、積極的に公表する大学での受け止め方を確認する。 文部科学省 高等教育局大学振興課 喜久里 要 氏</p>
16:20	終 了

9月2日 テーマ別自由討議

10:00 }	5階 大宮西	<p>[分科会A] 学習管理システムによる教育・学習支援の取組 学生一人ひとりの学習成果を確かなものにするには、学生の理解度を把握し、学びに応じた学習環境の整備が重要になる。学習環境として、教材配信やアンケートはもとより、指導・助言のフィードバック、コミュニケーションなどの機能を備えた学習管理システム(LMS: Learning Management System)が必要である。こうしたシステムを導入し活用している事例を紹介し、LMS活用の効果について考察する。 課題提起: 帝京大学 渡辺 博芳 氏 (理工学部教授、ラーニング開発室) 桜美林大学 鈴木 克夫 氏 (大学アドミニストレーション研究科教授)</p>
10:00 }	5階 大宮東	<p>[分科会B] ICTを活用したジェネリックスキル(汎用的能力) 育成の教育プログラム 1年次を対象としてきたライティングスキルやコミュニケーションスキルなどの汎用的能力を身につけさせるには、4年間を通じて教育の中で育成していく必要がある。それには、専門教育の中でジェネリックスキルの活用ができるよう、ICTを活用したeラーニングなどの教育プログラムの整備が望まれる。事例を通じて専門教育と一般教育との統合の重要性を確認する。 課題提起: 創価大学 岡田 一彦 氏 (教育・学習活動支援センター長) 東海大学 山本 義郎 氏 (教育支援センター次長)</p>
10:00 }	5階 櫻高西	<p>[分科会C] 質保証を充実するための支援システム 学生の質保証を実現するためには、常に学生が自らの学びの到達度について評価・確認し、学生一人ひとりに不足している能力を大学側で補完する仕組みづくりと支援体制が不可欠である。これらを実現するための一つの方法として、ICTを活用した学生カルテ、学習サポートフォリオがある。事例を踏まえて学生の質保証を充実するための新しい教育支援について考察する。 課題提起: 千歳科学技術大学 小松川 浩 氏 (総合光科学部教授) 広島女学院大学 中田 美智子 氏 (生活科学部准教授)</p>
12:30 }	各会場	<p>大学・企業によるICT導入・活用事例 (ポスターセッション) の概要紹介</p>
12:45 }		休 憩
14:00 }	5階 大宮西	<p>[分科会D] 学力を表現するための情報活用能力 これまでの情報技術の習得に比重が置かれていたが、本質的な学びを目指す学力の構成要素として機能することが要請される。本協会ととりまとめた情報活用能力を踏まえて、洞察、情報の信頼性、知識と情報の解析力、情報倫理などの重要性を理解し、FDとして情報活用教育の重要性、教育課程での対応などの取組について認識を深める。 課題提起: 私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会</p>
14:00 }	5階 大宮東	<p>[分科会E] クラウド利用による情報環境の在り方 情報投資の費用対効果を高めるため、ソフトウェアや情報機器の利用によるクラウド環境への転換が話題となっているが、クラウド利用によるメリット、デメリットについて理解を共有し、大学として持続可能な情報環境が維持できるような導入事例を踏まえて有用性の是非を考察する。 課題提起: 静岡大学 井上 春樹 氏 (情報基盤センター副センター長) 東京工科大学 田村 和哉 氏 (コンピュータサイエンス学部教授)</p>
16:45 }	6階 伊吹	<p>情報交流会</p>
17:00	5階 櫻	<p>大学・企業連携によるICT導入・活用事例紹介 (ポスターセッション)</p>

9月3日 大会発表 (75件) 別紙の発表一覧をご覧ください。